

令和 3～7 年度 「かながわ水源地域活性化計画」の取組状況について

神奈川県政策局政策部土地水資源対策課

現行計画（かながわ水源地域活性化計画）の概要

1. 計画期間 … **5年** 2021（令和3）年度～2025（令和7）年度

2. 目的

水源環境を含めた水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくこと

3. 目標値

- **水源地域への交流人口（水源地域への来訪者数）**

水源地域への交流人口を**2025（令和7）**年に**918万人**とする

（実績）

R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
623万人	742.5万人	764.6万人	756.3万人	R8.8公表

- **来訪者の満足度**

水源地域への来訪に好意的な回答（「満足」等）をした来訪者が

年度ごとに全体の80%となる

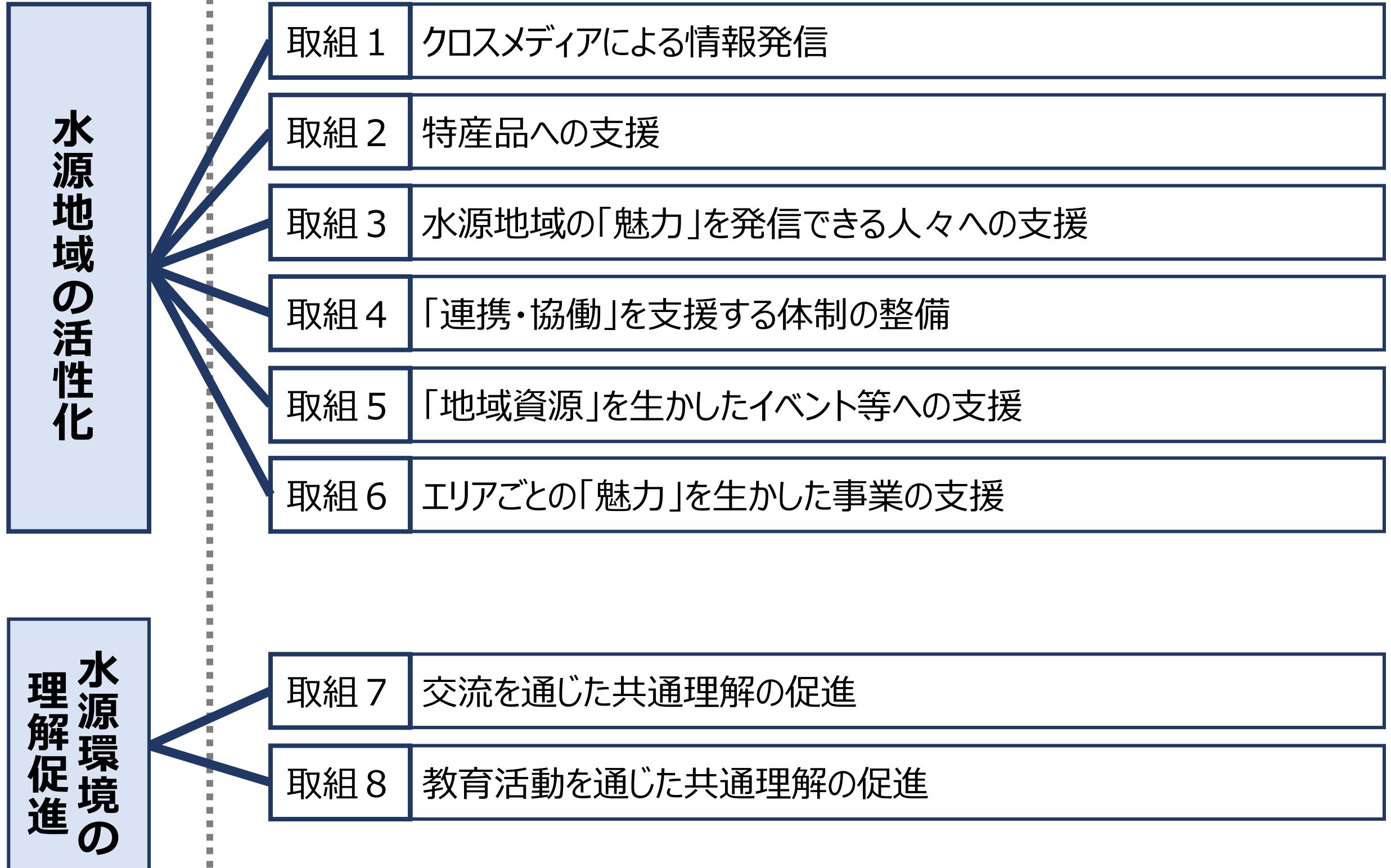
（実績【R8.1.1現在】）

R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
96.0%	97.4%	95.4%	94.8%	95.4%

現行計画（かながわ水源地域活性化計画） 体系図

施策の方向性

取組



取組ごとの成果

取組 1 クロスメディアによる情報発信①

概要

クロスメディア（様々な媒体での情報発信の組み合わせ）の観点から、水源地域の魅力を発信

ポータルサイト「神奈川やまなみ五湖navi」の運営

水源地域の魅力をより多くの人に発信するため、五湖naviを管理・運営



SNSの活用

五湖naviと合わせて、X・Instagram・YouTubeを活用した情報発信を実施

やまなみ五湖navi公式アカウント

@yamanami_navi

水源地域活性化推進協議会（事務局：神奈川県土地水資源対策課内）が運営する「神奈川やまなみ五湖navi」は、相模湖、奥相模湖、津久井湖、丹沢湖、宮ヶ瀬湖の5つの湖、通称「やまなみ五湖」周辺の情報を発信するポータルサイトです。イベント情報などを発信します。お問合せはウェブサイトのフォームをご利用ください。

© 神奈川県 suigen.jp 2012年12月からXを利用しています

55 フォロー中 1,004 フォロワー

R6～7 Xにおけるやまなみグッズプレゼントキャンペーン実施

若年層向けに、Xアカウントをフォローし、キャンペーンの投稿を引用リポストした応募者に、抽選でやまなみグッズをプレゼント



午後2:00・2025年9月1日・1.3万 件の表示

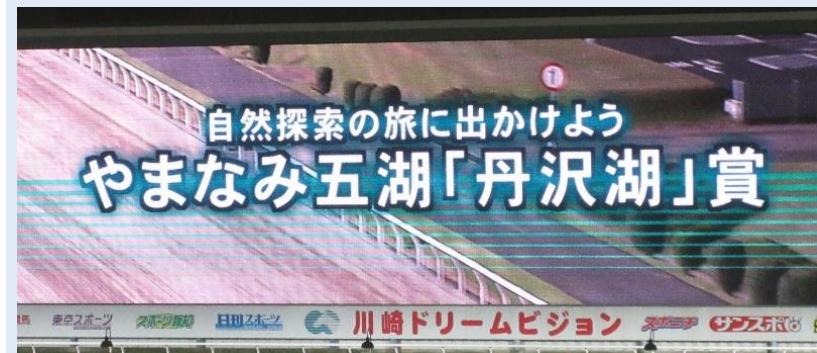
デジタルサイネージの活用

水源地域の魅力を発信する動画を神奈中バス等で放映



川崎競馬場での協賛レース

協賛レースを実施し、動画放映を行ったほか、広報ブースを設置



取組ごとの成果

取組 1 クロスメディアによる情報発信②

広報物の作成

R3 観光ポスター

令和元年に作成した観光パンフレットと連動した、各湖の観光ポスターを作成



R6 観光パンフレット

ニーズ調査の結果をふまえ、紙の広報媒体を好む中高年層向けの観光パンフレットを作成



R6~7 水源シール

水道水の水源が視覚的に分かるシールを県内小学校に配布 (学校の手洗い場等に貼付)



R7 啓発ポスター

水道水源としてのやまなみ五湖の役割や重要性を啓発するポスターを作成



取組ごとの成果

取組 1 クロスメディアによる情報発信③

実績（R8.1.1現在）

- 五湖naviへのアクセス数



- Xインプレッション数

R3	R4	R5	R6	R7
47,539件	62,841件	46,307件	77,548件	99,100件

※ 令和6年7月以降の数字は、Xの仕様変更により、百の位までの概数

評価

各種機会をとらえ、様々な媒体での情報発信を行ってきたが、県民の貴重な水がめである「やまなみ五湖」の認知度が低いことが課題。

取組ごとの成果

取組 2 特産品への支援①

概要

水源地域の素材や自然の恵みを生かした「**やまなみグッズ**」を通じた、水源地域の魅力発信

やまなみグッズの認定

令和8年1月現在、99品目がやまなみグッズとして認定



瓶々プリン



茶々プリン



葉山島
青パパイヤ

特集記事による発信

ブランディング強化のため、やまなみグッズ事業者に取材を行い、五湖naviに特集記事を掲載し、商品のストーリーを発信

相模湖

2021

「フジセン」津久井せんべい本舗



藤野産の柚子胡椒、佐野川の緑茶、津久井在来大豆を使った味噌の3つの味が楽しめる

各種イベントへの出店支援

各種イベントの機会をとらえ、やまなみグッズ事業者の出店を支援

- ・ 相模原ギオンスタジアム
- ・ 津久井やまびこまつり
- ・ 城山もみじまつり
- ・ あつぎ国際大道芸 等



相模原
ギオンスタジアム

津久井
やまびこまつり



取組ごとの成果

取組 2 特産品への支援②

五湖naviでの発信

五湖naviにやまなみグッズのページを設け、全品目を紹介



販売の促進

認定商品を紹介する「パンフレット」や店頭に掲示するための「のぼり旗」等を作成し、事業者へ提供したほか、イベント等で配布、掲示を行った



パンフレット

のぼり旗



シール

市町村ブランドとの連携

かながわの水源地域キャンペーンにて、やまなみグッズと共に、清川村の特産品販売を行った (R6~7)



取組ごとの成果

取組 2 特産品への支援③

実績 (R8.1.1現在)

- 「やまなみグッズ」に対する認知度

… かながわの水源地域キャンペーン内で実施したアンケートより集計

	知っていた	知らなかった (R4～6はイベントで初めて知ったを含む)
R4 (n=140)	12.9%	85.7%
R5 (n=451)	10.2%	86.9%
R6 (n=282)	12.4%	85.8%
R7 (n=386)	11.0%	88.0%

※ R3は、コロナ禍によりかながわの水源地域キャンペーンの開催なし

評価

やまなみグッズの周知のための取組を行っているが、認知度が低いことが課題。

取組ごとの成果

取組3 水源地域の「魅力」を発信できる人々への支援

概要

案内人への支援を行うことによる、案内人の活動を通じた水源地域の魅力発信

案内人会議の開催

活性化計画に基づく取組の進捗状況の報告や、案内人への支援策の内容等について、意見交換を行うため、会議を開催。R7は、事例研修を合わせて実施



R3～5 案内人後継者育成事業

山北町で実施される、案内人後継者育成事業を支援

案内人制度の広報支援

案内人の登録者数の増加を目指すため、案内人制度を紹介する動画を制作（R4）
また、案内人へのインタビュー記事を五湖naviに掲載する広報支援を実施

愛川の自然を歩き、学び、守る。次代にバトンを
つなぐ案内人 サークル愛川自然観察会



実績（R8.1.1現在）

- 案内人の登録者数
19者（個人15名、4団体）
- 連絡会議（案内人会議）の実施回数
4回（令和4年度以降、1年に1回実施）

評価

案内人の登録者数が計画当初の13者から徐々に増加している。

取組ごとの成果

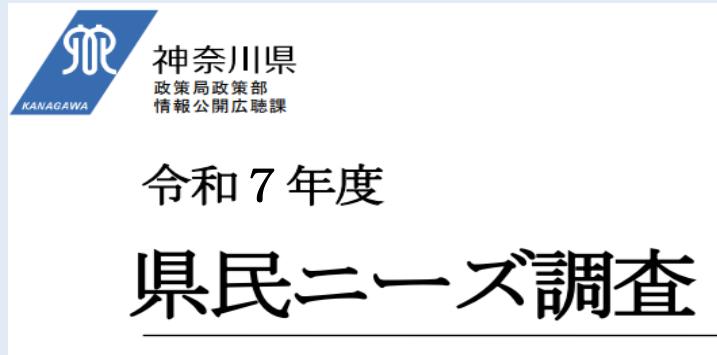
取組4 「連携・協働」を支援する体制の整備

概要

水源地域における**水源地域住民**と**都市地域住民**の「**連携・協働**」を支援する体制の整備

水源地域に対する ニーズの調査

水源地域に関するニーズを調査するため、「県民ニーズ調査」を活用した調査を実施



水源地域PRブースの出展

水源地域に興味を持つ人の発掘のため、都市地域で実施されるイベントに水源地域PRブースを出展



連携・協働にむけた 仕組みづくり

観光部門との連携・協働の一環として、水源地域の観光資源に関する情報を県公式観光サイトで共有



実績 (R8.1.1現在)

- 「取組5」、「取組7」で把握する実績を参照

評価

都市地域住民に対し、水源地域に興味を持つサポーター発掘のための取組を推進しているが、都市地域住民で「担い手」となる人々の掘り起こしは進んでいない。

取組ごとの成果

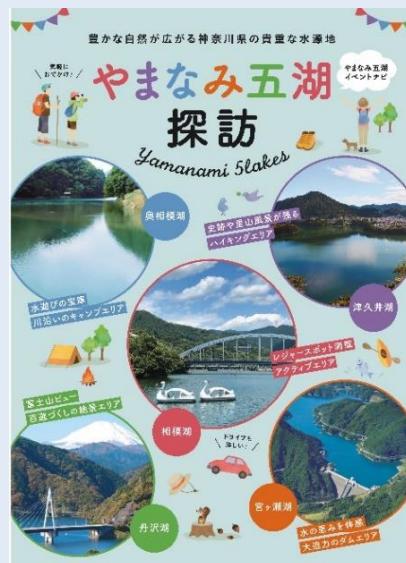
取組5 「地域資源」を生かしたイベント等への支援

概要

水源地域の「魅力」の1つである**イベント等**を**広報**の面から支援

イベントの広報支援

水源地域におけるイベントについて、パンフレットを作成（R3）、五湖navi及びSNS、タウン誌を活用した広報支援を実施



五湖第6回 宮ヶ瀬ダムナイト放流イベント好評イベント、観覧者募集

10月26日 午後5時から

毎年多くの応募が集まり、参加が抽選となった。またイベントのフィナーレには花火の打ち上げも、参加には申し込みが必要で、申し込み方法やイベント詳細については愛川町のホームページを確認。

問合せ先：愛川町役場 商工観光課 ☎046・285・2111（内線3523）平日午前8時30分～午後5時15分へ。

五湖naviでの年間カレンダーの掲載

来訪者が自身のニーズに合ったイベントを見つけやすくし、来訪者と水源地域のマッチングを強化するため、五湖naviに水源地域におけるイベントの年間カレンダーを掲載

前の月	4月			次の月
	上旬	中旬	下旬	
相模湖			相模湖やまなみ祭	
津久井湖	津久井湖さくらまつり（水の祭典）			
奥相模湖				
宮ヶ瀬湖	宮ヶ瀬桜まつり		あいかわ公園つつじまつり	
			みやがせフェスタ	
丹沢湖				大野山睡ま

実績（R8.1.1現在）

支援したイベント等への参加者数

R3	R4	R5	R6	R7
4,799人	212,375人	580,543人	619,392人	437,724人

参加者の満足度

R3	R4	R5	R6	R7
96.0%	97.4%	95.4%	94.8%	95.4%

※ 相互連携して実施する、取組7、取組8において集計した満足度から算出

評価

「参加者の満足度」は高い水準を維持している。

取組ごとの成果

取組6 エリアごとの「魅力」を生かした事業の支援

概要

水源地域を津久井エリア・宮ヶ瀬エリア・山北エリアに分け、エリアごとの新たな「魅力」を発掘し、事業化を行う。

地域からの提案(自然体験交流事業)に対する支援

R5～7 津久井エリア

水源地域の新たな特産品を目指した山椒栽培及び食品製造体験として、山椒の収穫・加工体験や商品開発を行うために必要な体験を支援



R7 宮ヶ瀬エリア

鳥居原 アンバサダー・水源地域の案内人育成事業として、鳥居原のアンバサダー及びかながわ水源地域の案内人育成のためのイベントを支援



評価

新規性又は独自性があるエリアごとの「魅力」を生かした事業に支援を行っているが、事業の申請数が少ないことが課題。

取組ごとの成果

取組 7 交流を通じた共通理解の促進①

概要

- ① 水源地域の豊かな**自然**や歴史のある**郷土文化**等に触れ合う**機会の提供**
- ② **都市地域**における**水源地域 P R**を目的とする**イベント**等の実施

1

自然体験交流事業への支援

豊かな自然や生物多様性の大切さを実感し、郷土文化とふれあう場を都市地域住民に提供する体験交流事業を支援



自治体間交流事業への支援

水源地域市町村が企画する地域住民と都市地域住民との体験交流事業を支援



2

水源地域キャンペーンの実施

水源地域をPRするため、都市地域において、かながわの水源地域キャンペーンを実施



取組ごとの成果

取組 7 交流を通じた共通理解の促進②

実績 (R8.1.1現在)

- 参加者数、参加者の満足度
(自然体験交流事業)

	R3	R4	R5	R6	R7
事業数	6件	11件	15件	17件	16件
参加者数	494人	901人	1,147人	1,146人	543人
満足度	99.2%	99.6%	97.7%	99.1%	98.3%

- 参加者数、参加者の満足度
(かながわの水源地域キャンペーン)

	R3	R4	R5	R6	R7
参加者数	イベント 開催なし	242人	572人	333人	1,110人 (2回)
満足度	イベント 開催なし	88.1%	88.2%	87.8%	93.5%

- 参加者数、参加者の満足度
(自治体間交流事業)

	R3	R4	R5	R6	R7
事業数	1件	5件	6件	7件	6件
参加者数	18人	85人	113人	144人	117人
満足度	95.8%	97.6%	99.5%	97.3%	97.6%

評価

様々な交流事業への支援を行っているが、人口減少や高齢化により、事業の担い手が少なくなってきたことが課題。

取組ごとの成果

取組 8 教育活動を通じた共通理解の促進①

概要

- ① 児童・生徒等の**交流**を通じた「**体験学習**」の場の提供
- ② 児童・生徒等の**自然体験**を通じた水源林の重要性に係る**学習機会**の提供

1

小中学校等交流への支援

水源地域と都市地域の小中学校等が互いの学校やその地域を訪問する体験交流事業を支援



Kanagawa Prefectural Government

R5～ 出前授業の実施

水源環境への理解促進及び案内人への支援のため、県内の小中学校等に対し、案内人を講師とした出前授業を実施



2

水源地域を学ぶ体験学習の実施

県内小学校を対象に、山北町での間伐等の森林保全作業やのこぎりひきなどの体験学習を実施。合わせて、副教材「森は水のふるさと」を、県内小学校4年生に提供



取組ごとの成果

取組 8 教育活動を通じた共通理解の促進②

実績 (R8.1.1現在)

参加者数、参加者の満足度(小中学校等交流)

	R3	R4	R5	R6	R7
学校数	3組6校	3組6校	2組4校	2組4校	2組4校
参加者数	359人	210人	198人	189人	175人
満足度	94.1%	95.7%	96.8%	93.1%	92.9%

参加者数、参加者の満足度(水源地域を学ぶ体験学習)

	R3	R4	R5	R6	R7
学校数	中止	4校	4校	3校	1校
参加者数	中止	244人	268人	157人	7人
満足度	中止	99.3%	98.1%	95.6%	100%

評価

小中学校等交流事業、水源地域を学ぶ体験学習共に水源環境への理解に高い効果が期待できるが、小中学校等交流事業は参加学校の硬直化及び水源地域受入数の限界が課題。